

平成29年度 布佐中学校 学校評価 教職員による自己評価集計

1. 各評価の観点について実践を振り返り、評価欄の数字に○をつけてください。
 4: 十分重点として認識し、達成に向けた努力をしている 3: 重点目標として認識し、実践している
 2: 重点としての意識は低く、個別的な努力をした。 1: ほとんど認識がなかった。
 2. 各項目の「自己評価・提案」の欄には領域に対する自己評価、学校改善(2.3学期)に向けた提案を書いてください。

※ 自己の取り組みに対する反省、評価でなく、1学期における布佐中学校の教育活動全体をみてそれぞれの項目について自分としてどう評価するのか、という観点から記入してください。

平成29年度学校教育目標

『自ら学び、共によりよく生きる生徒の育成』 「自主性」「共生」

平成29年度の重点

- 主体的によりよい生活・学習のあり方を求め、思考し、的確に判断しながら行動(表現)できる生徒を育てる。
- 互いの価値観を認め、仲間と学び合い支え合いながら、(自分ではない)誰かのために貢献できる生徒を育てる。
- 家庭・地域と連携し、三者一体となって生徒を育てるとともに、(地域が同一である)小学校との一貫教育を推進していく。

今年度学校経営方針「子どもの自主性と共生的な態度を引き出す教育課程の創造」

【5つの柱】

- 言語活動の充実・授業での実践、特別活動での実践。
- 教職員の協働……目的・目標を全職員で共通理解し、同じベクトルに進む。
- 共生的な態度……互いの価値を認め、支え合い、助け合う態度。
- 小中一貫……一貫カリキュラムの整備による学力向上、中一ギャップの解消等。
- 人材育成……教職員の指導スキルとキャリアアップを図る。

【3つの重点活動】

- 自ら課題を見つけ、解決にむけて思考し表現する力やコミュニケーション能力を培うカリキュラムの作成。
- 学校内外で他者に関わる活動、人や地域に貢献する活動を進める。
- チーム布佐として協同・協働できる組織。

めざす生徒像

- ① よりよい生活・学習のあり方を求め、主体的に考え、的確に判断しながら行動(表現)できる生徒。
- ② 互いの価値観を認め、仲間と学び合い、支え合いながら、(自分ではない)誰かのために貢献できる生徒。
- ③ 地域を愛し、地域と協働しながら、よりよい社会の形成に向けて夢面できる生徒。

めざす学校像

- ① 学校を核として、保護者・地域と連携しながら、みんなで創る地域の学校。
- ② 先生も生徒も通うことが楽しく、日々を充実した気持ちで過ごせる学校。
- ③ 地域コミュニティの中核としての役割を果たせる学校。

○今年度の重点について

重点	(教職員による自己評価) 評価の観点	評価				2学期末	1学期末
		上段=評価	下段=人数				
1	主体的によりよい生活・学習のあり方を求め、思考し、的確に判断しながら行動(表現)できる生徒を育てる。	4	3	2	1	96%	96%
		6	17	1	0		
2	互いの価値観を認め、仲間と学び合い、支え合いながら(自分ではない)誰かのために貢献できる生徒を育てる。	4	3	2	1	2学期末	1学期末
		5	16	3	0	88%	96%
3	家庭・地域と連携し、三者一体となって生徒を育てるとともに(地域が同一である)小学校との一貫教育を推進していく。	4	3	2	1	2学期末	1学期末
		9	14	1	0	96%	96%

領域		生徒指導・教育相談・長欠対策					
NO	(教職員による自己評価) 評価の観点	評価 上段=評価 下段=人数				2学期 達成率	1学期 達成率
		4	3	2	1		
17	問題行動等が発生した場合、職員相互がチームにより対応し、管理職や関係職員への報告・相談等を行いながら、早期解決に努めている。	14	7	1	0	95%	100%
18	生徒に自律的な規範意識を育てるよう、学年、学級、分掌等での活動推進に努めている。	5	15	2	0	91%	95%
19	特に課題を抱えた生徒に関する情報は、学校職員の共有すべき情報として伝える、相談するなどの「つなぎ機能」が生かされている。	9	13	0	0	100%	91%
20	長欠・教育相談に関する指導は、必要に応じ、他校種、外部機関と連携するなどチームワークで対応しようとしている。	11	11	0	0	100%	95%
21	生徒が自ら考え、自主的・自律的に行動でき、みずからの目標に責任を負うことのできる生徒を育成するための指導を行っている。	6	13	3	0	86%	86%
22	社会の一員としての意識(公平・公正・勤労・モラル等)を身につけた生徒を育成するための指導を行っている。	7	13	3	0	87%	95%
23	保護者と連携して、粘り強く生活習慣を身につけた生徒を育成するための指導を行っている。	9	11	4	0	83%	91%
24	いじめ根絶に向けて、全職員でいじめ防止基本方針を確認し、全職員で連携して取り組んでいる。	10	14	0	0	100%	100%
領域		健康管理・安全管理					
NO	(教職員による自己評価) 評価の観点	評価 上段=評価 下段=人数				2学期 達成率	1学期 達成率
		4	3	2	1		
25	生徒に体力・健康の自己管理ができるよう、治療のすすめ、生活習慣などの指導を行った。	10	12	0	0	100%	96%
26	災害、危険防止の観点から危険予知能力育成、安全管理など適切に行っている。	7	13	2	0	91%	91%
27	学校保健計画・学校安全計画を確認し、計画的に指導している。	4	15	3	0	86%	83%
28	PTA活動の内容を理解し、積極的に取り組もうとしている。	5	11	6	0	73%	65%
領域		特別支援教育					
NO	(教職員による自己評価) 評価の観点	評価 上段=評価 下段=人数				2学期 達成率	1学期 達成率
		4	3	2	1		
29	特別な支援を必要とする生徒に対して、学級経営や授業の中で配慮を行っている。	8	12	0	0	100%	100%
30	ユニバーサルデザインの考えに基づいた授業実践に努めている。	6	12	2	0	90%	100%
31	特別な支援を必要とする生徒について個別指導計画や個別の教育支援計画を適切に作成しようとしている。	8	12	0	0	100%	91%
32	特別な支援を必要とする生徒について医療、福祉(児相など)関係機関との連携を図ろうとしている。	9	10	2	0	90%	91%
33	特別支援学級の生徒との交流学習を図っている。	10	11	0	0	100%	100%

領域		研究と修養					
NO	(教職員による自己評価) 評価の観点	評価 上段=評価 下段=人数				2学期 達成率	1学期 達成率
		4	3	2	1		
34	学年・教科を越え、教員としての力量形成のための研修を進めている。	8	14	0	0	100%	87%
35	初任者、若手教員、栄養職員、養護教諭等の校内職員の研修に、積極的に関わり、人材育成に寄与している。	9	13	2	0	92%	65%
36	郷土の偉人や業績、地域の歴史を学ぶカリキュラムに基づき授業を実施し、小中(高)をつなぐ教育を進めようとしている。	9	10	2	2	83%	74%
37	小中一貫教育の推進に向けて、小学校と連携し、小中一貫の考え方、方針等の共有化を図り、9年間を見通した教育を系統的・計画的に行おうとしている。	10	13	1	0	96%	83%
領域		組織・学校情報の広報					
NO	(教職員による自己評価) 評価の観点	評価 上段=評価 下段=人数				2学期 達成率	1学期 達成率
		4	3	2	1		
38	学校教育目標の具現化に向けて、保護者・地域と連携を図り、教育活動の理解や参画を得るよう努めている。	7	13	3	0	87%	96%
39	組織の円滑な運営のために、学年を越えて声を掛け合うなど、「つなぐ」意思疎通を図っている。	8	15	1	0	96%	91%
40	学年や学級の課題を明らかにし、改善するための工夫を行っている。	9	13	0	0	100%	91%
41	市予算の財務は、学校教育目標具現化に向けて適正執行されている。	7	11	4	0	82%	73%
42	HP・学校便り・学年だより・学級だより・保健だよりや給食だより、相談室だよりなど学校広報が進んでいる。	9	11	2	0	91%	95%

平成29年度 布佐中学校 学校評価 教職員による自己評価集計

- 各評価の観点について実践を振り返り、評価欄の数字に○をつけてください。
 4: 十分重点として認識し、達成に向けた努力をしている 3: 重点目標として認識し、実践している
 2: 重点としての意識は低く、個別的な努力をした。 1: ほとんど認識がなかった。
- 各項目の「自己評価・提案」の欄には領域に対する自己評価、学校改善(2,3学期)に向けた提案を書いてください。

※ 自己の取り組みに対する反省、評価でなく、1学期における布佐中学校の教育活動全体をみてそれぞれの項目について 自分としてどう評価するのか、という観点から記入してください。

平成29年度学校教育目標

『自ら学び、共によりよく生きる生徒の育成』 「自主性」「共生」

平成29年度の重点

- 主体的によりよい生活・学習のあり方を求め、思考し、的確に判断しながら行動(表現)できる生徒を育てる。
- 互いの価値観を認め、仲間と学び合い支え合いながら、(自分ではない)誰かのために貢献できる生徒を育てる。
- 家庭・地域と連携し、三者一体となって生徒を育てるとともに、(地域が同一である)小学校との一貫教育を推進していく。

今年度学校経営方針「子どもの自主性と共生的な態度を引き出す教育課程の創造」

【5つの柱】

- 言語活動の充実・授業での実践、特別活動での実践。
- 教職員の協働……目的・目標を全職員で共通理解し、同じベクトルに進む。
- 共生的な態度……互いの価値を認め、支え合い、助け合う態度。
- 小中一貫……一貫カリキュラムの整備による学力向上、中一ギャップの解消等。
- 人材育成……教職員の指導スキルとキャリアアップを図る。

【3つの重点活動】

- 自ら課題を見つけ、解決にむけて思考し表現する力やコミュニケーション能力を培うカリキュラムの作成。
- 学校内外で他者に関わる活動、人や地域に貢献する活動を進める。
- チーム布佐として協同・協働できる組織。

めざす生徒像

- よりよい生活・学習のあり方を求め、主体的に考え、的確に判断しながら行動(表現)できる生徒。
- 互いの価値観を認め、仲間と学び合い、支え合いながら、(自分ではない)誰かのために貢献できる生徒。
- 地域を愛し、地域と協働しながら、よりよい社会の形成に向けて参画できる生徒。

めざす学校像

- 学校を核として、保護者・地域と連携しながら、みんなで創る地域の学校。
- 先生も生徒も通うことが楽しく、日々を充実した気持ちで過ごせる学校。
- 地域コミュニティの中核としての役割を果たせる学校。

○今年度の重点について

重点	(教職員による自己評価) 評価の観点	評価				2学期末	1学期末
		上段=評価	下段=人数				
1	主体的によりよい生活・学習のあり方を求め、思考し、的確に判断しながら行動(表現)できる生徒を育てる。	4	3	2	1	96%	96%
		6	17	1	0		
2	互いの価値観を認め、仲間と学び合い、支え合いながら(自分ではない)誰かのために貢献できる生徒を育てる。	4	3	2	1	2学期末	1学期末
		5	16	3	0	88%	96%
3	家庭・地域と連携し、三者一体となって生徒を育てるとともに(地域が同一である)小学校との一貫教育を推進していく。	4	3	2	1	2学期末	1学期末
		9	14	1	0	96%	96%

手だて 言語活動の充実・共生的な態度・職員の協働・小中をつなぐ・人を生かし・人を育てる(職員・生徒)

領域 学力向上のための校内研究の推進と授業改善

NO	(教職員による自己評価) 評価の観点	評価 上段=評価 下段=人数				2学期 達成率	1学期 達成率
		4	3	2	1		
1	グループを活用して「活動と協同」のある授業を実践している。	11	11	0	0	100%	100%
2	「活動と協同」のある授業を実践するために、学習課題のあり方や教員の話、ファシリテーターとしての役割に留意している。	2	17	3	0	86%	90%
3	授業の初めに学習課題(問題)を提示し、終末にまとめや振り返りの時間をとっている。	9	10	1	0	95%	80%
4	1時間の授業の中で、「深める」活動(思考をする)を取り入れている。	6	14	1	0	95%	85%
5	同一教科による学年間をつないだ言語活動の充実に向けた取り組みを行っている。(書く、プレゼンテーションをする、学び合い など)	4	15	3	0	86%	85%
6	読書・読書活動の充実のための取り組みと授業への図書の利用を推進している。	2	11	7	1	62%	60%
7	家庭学習の習慣化・充実を図り、授業と連動させる工夫を行っている。	4	11	6	0	71%	85%

領域 特別活動・道徳

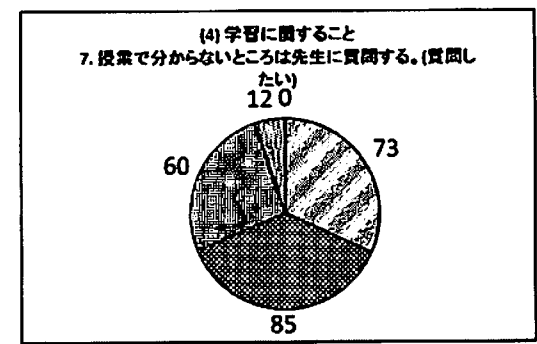
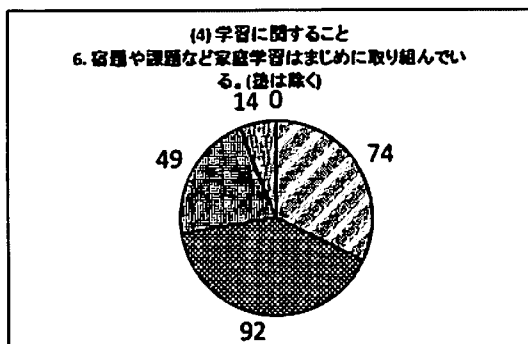
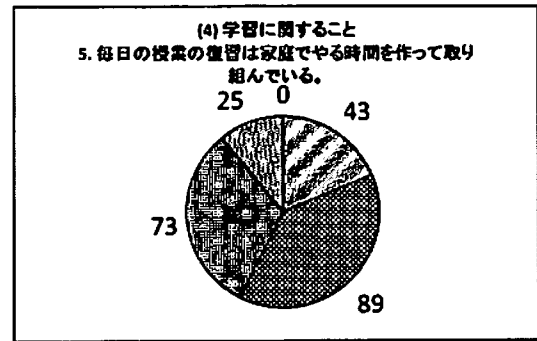
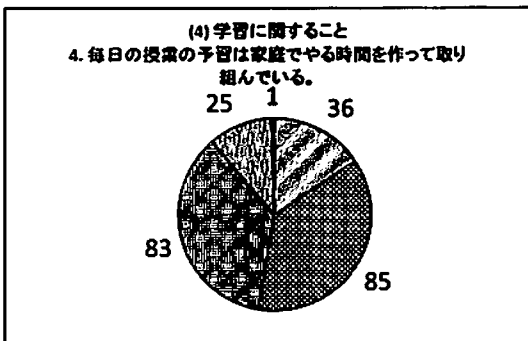
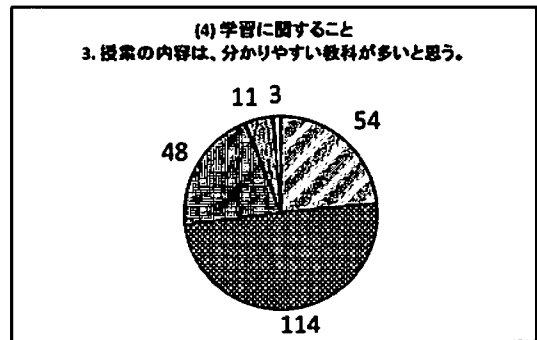
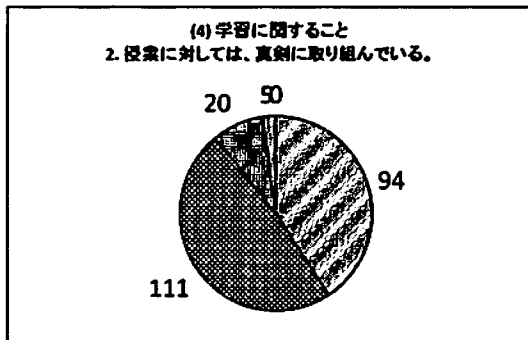
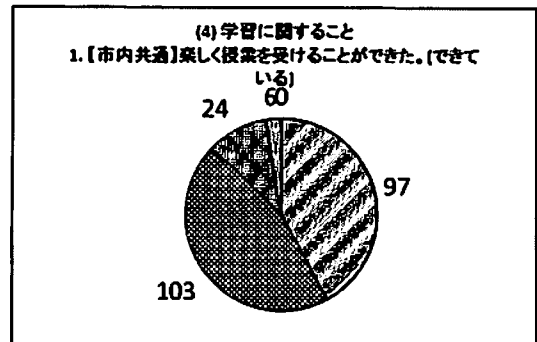
NO	(教職員による自己評価) 評価の観点	評価 上段=評価 下段=人数				2学期 達成率	1学期 達成率
		4	3	2	1		
8	特別活動(学校行事、生徒会、学級会、学級活動)での話し合い活動を進めている。	13	7	0	0	100%	95%
9	課題発見、解決型の総合的な学習を進めている。	7	14	0	0	100%	100%
10	一人一人のよさを認め、人間関係形成のできる生徒指導を進めている。	8	12	1	0	95%	100%
11	ボランティア活動等の地域貢献により自己肯定感の高まる活動を推進している。	4	14	4	0	82%	67%
12	生徒の自主的な活動を基盤とした地域貢献活動を推進している。	5	9	7	0	67%	71%
13	一人一人が所属感・存在感をもてるような学級経営の工夫により、生徒が充実した生活を送っている。	3	13	4	0	80%	90%
14	学級活動等の活性化により、生徒の主体性の育成を目指している。	8	10	3	0	86%	90%
15	教育活動全体を通して、生徒の豊かな心を育む努力をしている。	5	15	1	0	95%	95%
16	道徳で培った道徳的判断力や行動力を、生徒の生活や他の教科の中で生かそうとしている。	2	13	6	0	71%	80%

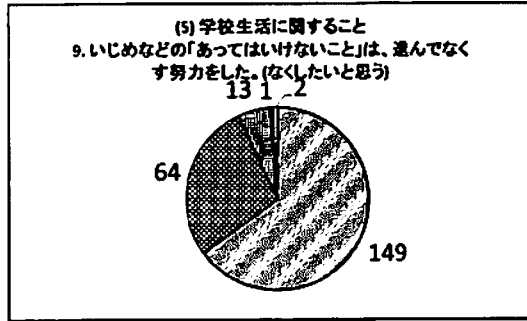
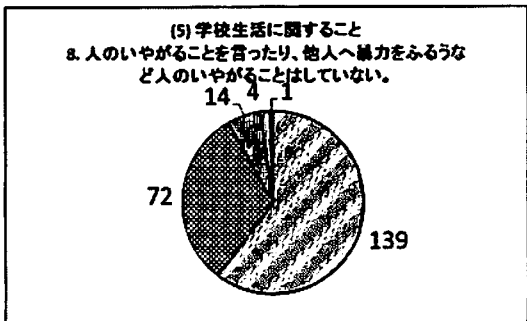
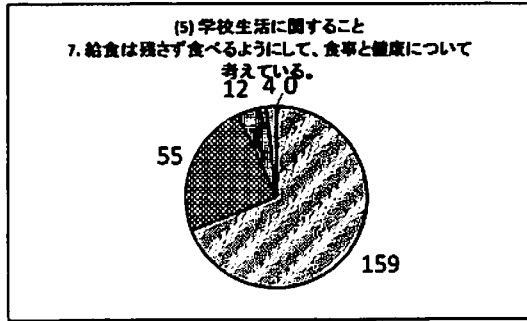
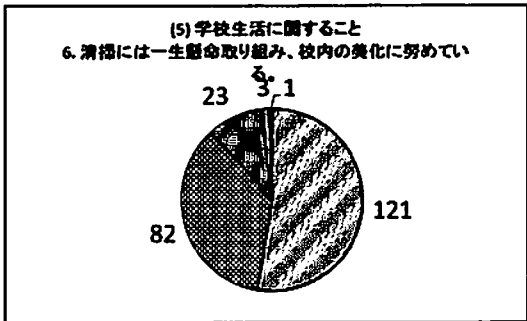
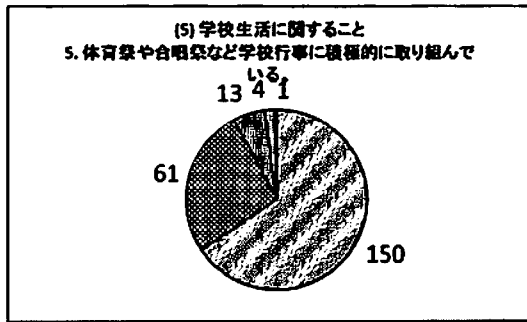
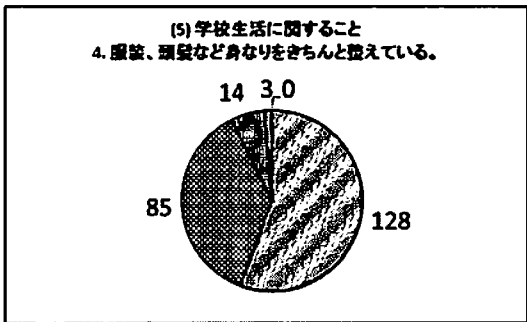
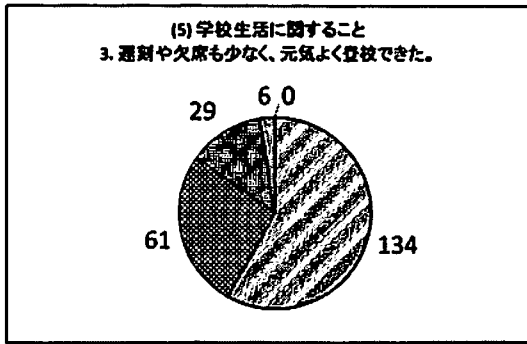
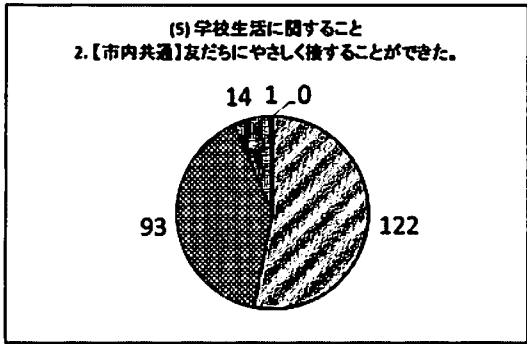
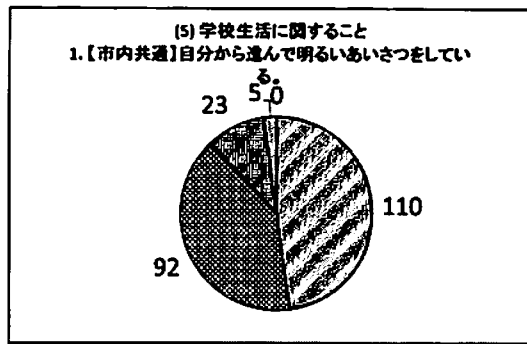
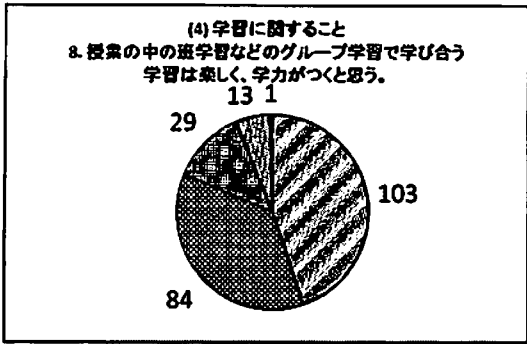
領域		生徒指導・教育相談・長欠対策					
NO	(教職員による自己評価) 評価の観点	評価 上段=評価 下段=人数				2学期 達成率	1学期 達成率
		4	3	2	1		
17	問題行動等が発生した場合、職員相互がチームにより対応し、管理職や関係職員への報告・相談等を行いながら、早期解決に努めている。	14	7	1	0	95%	100%
18	生徒に自律的な規範意識を育てるよう、学年、学級、分掌等での活動推進に努めている。	5	15	2	0	91%	95%
19	特に課題を抱えた生徒に関する情報は、学校職員の共有すべき情報として伝える、相談するなどの「つなぎ機能」が生かされている。	9	13	0	0	100%	91%
20	長欠・教育相談に関する指導は、必要に応じ、他校種、外部機関と連携するなどチームワークで対応しようとしている。	11	11	0	0	100%	95%
21	生徒が自ら考え、自主的・自律的に行動でき、みずからの冒頭に責任を負うことのできる生徒を育成するための指導を行っている。	6	13	3	0	86%	86%
22	社会の一員としての意識(公平・公正・勤労・モラル等)を身につけた生徒を育成するための指導を行っている。	7	13	3	0	87%	95%
23	保護者と連携して、粘り強く生活習慣を身につけた生徒を育成するための指導を行っている。	9	11	4	0	83%	91%
24	いじめ根絶に向けて、全職員でいじめ防止基本方針を確認し、全職員で連携して取り組んでいる。	10	14	0	0	100%	100%
領域		健康管理・安全管理					
NO	(教職員による自己評価) 評価の観点	評価 上段=評価 下段=人数				2学期 達成率	1学期 達成率
		4	3	2	1		
25	生徒に体力・健康の自己管理ができるよう、治療のすすめ、生活習慣などの指導を行った。	10	12	0	0	100%	96%
26	災害、危険防止の観点から危険予知能力育成、安全管理など適切に行っている。	7	13	2	0	91%	91%
27	学校保健計画・学校安全計画を確認し、計画的に指導している。	4	15	3	0	86%	83%
28	PTA活動の内容を理解し、積極的に取り組もうとしている。	5	11	6	0	73%	65%
領域		特別支援教育					
NO	(教職員による自己評価) 評価の観点	評価 上段=評価 下段=人数				2学期 達成率	1学期 達成率
		4	3	2	1		
29	特別な支援を必要とする生徒に対して、学級経営や授業の中で配慮を行っている。	8	12	0	0	100%	100%
30	ユニバーサルデザインの考えに基づいた授業実践に努めている。	6	12	2	0	90%	100%
31	特別な支援を必要とする生徒について個別指導計画や個別の教育支援計画を適切に作成しようとしている。	8	12	0	0	100%	91%
32	特別な支援を必要とする生徒について医療、福祉(児相など)関係機関との連携を図ろうとしている。	9	10	2	0	90%	91%
33	特別支援学級の生徒との交流学習を図っている。	10	11	0	0	100%	100%

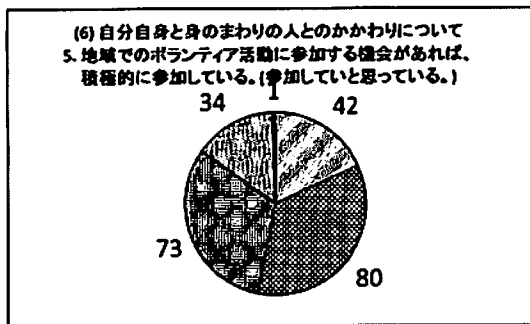
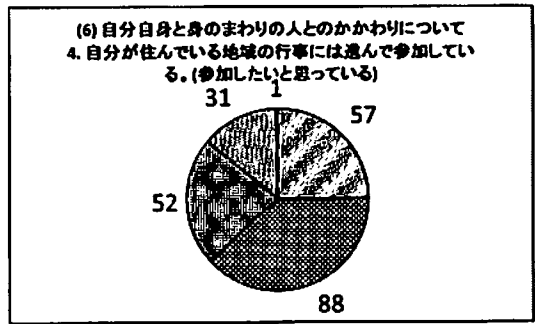
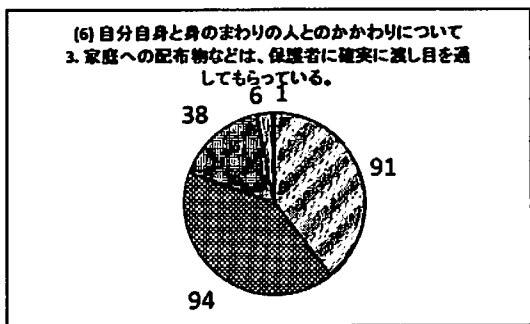
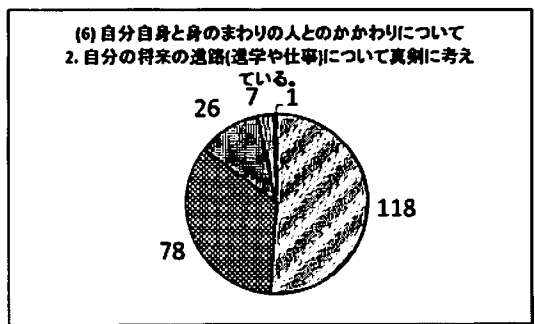
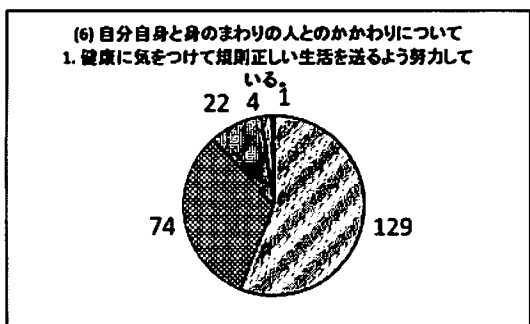
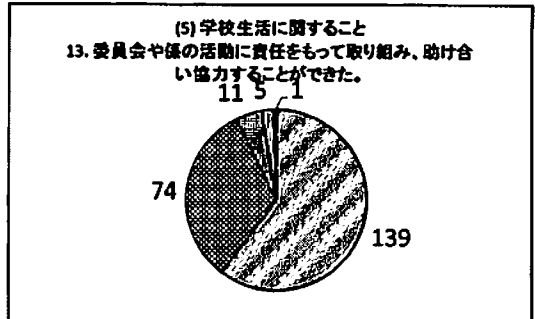
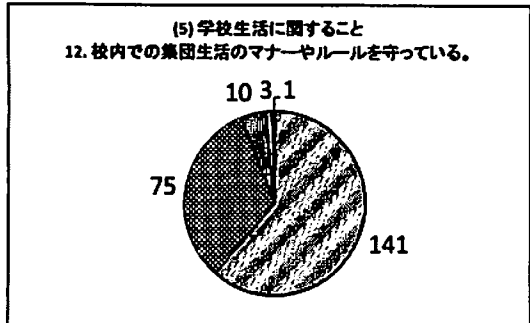
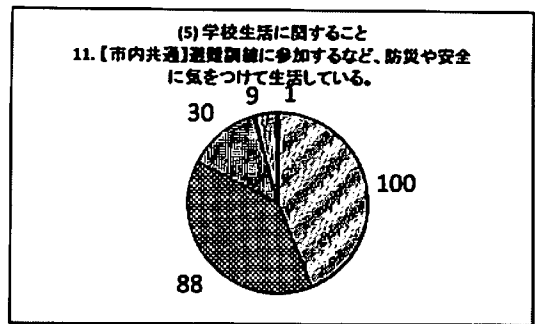
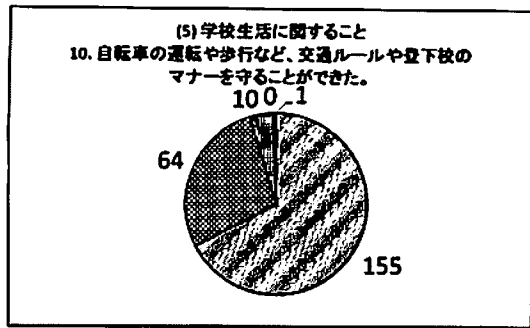
領域		研究と修養					
NO	(教職員による自己評価) 評価の観点	評価 上段=評価 下段=人数				2学期 達成率	1学期 達成率
		4	3	2	1		
34	学年・教科を越え、教員としての力量形成のための研修を進めている。	8	14	0	0	100%	87%
35	初任者、若手教員、栄養職員、養護教諭等の校内職員の研修に、積極的に関わり、人材育成に寄与している。	9	13	2	0	92%	65%
36	郷土の偉人や業績、地域の歴史を学ぶカリキュラムに基づき授業を実施し、小中(高)をつなぐ教育を進めようとしている。	9	10	2	2	83%	74%
37	小中一貫教育の推進に向けて、小学校と連携し、小中一貫の考え方、方針等の共有化を図り、9年間を見通した教育を系統的・計画的に行おうとしている。	10	13	1	0	96%	83%
領域		組織・学校情報の広報					
NO	(教職員による自己評価) 評価の観点	評価 上段=評価 下段=人数				2学期 達成率	1学期 達成率
		4	3	2	1		
38	学校教育目標の具現化に向けて、保護者・地域と連携を図り、教育活動の理解や参画を得るよう努めている。	7	13	3	0	87%	96%
39	組織の円滑な運営のために、学年を越えて声を掛け合うなど、「つなぐ」意思疎通を図っている。	8	15	1	0	96%	91%
40	学年や学級の課題を明らかにし、改善するための工夫を行っている。	9	13	0	0	100%	91%
41	市予算の財務は、学校教育目標具現化に向けて適正執行されている。	7	11	4	0	82%	73%
42	HP・学校便り・学年だより・学級だより・保健だよりや給食だより、相談室だよりなど学校広報が進んでいる。	9	11	2	0	91%	95%

学校評価のための生徒アンケート結果

- そう思う
- 大体そう思う
- あまりそう思わない
- そう思わない
- 無回答

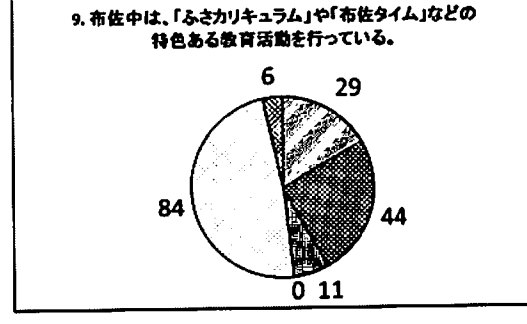
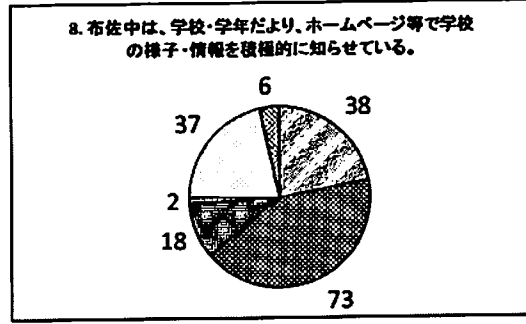
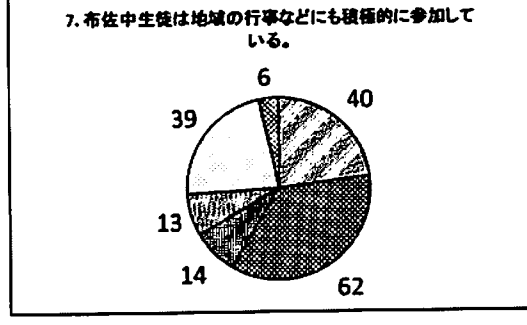
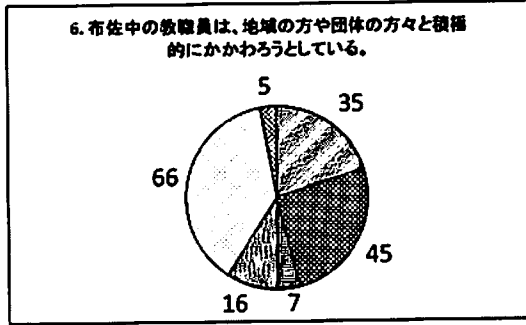
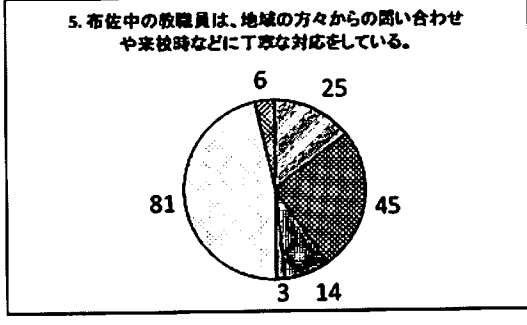
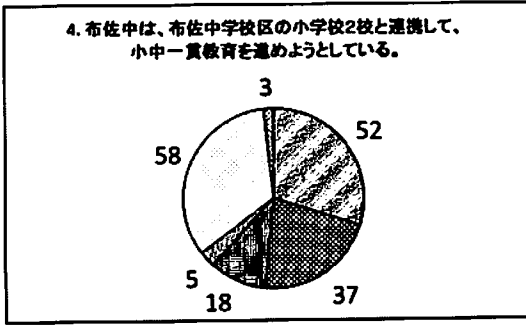
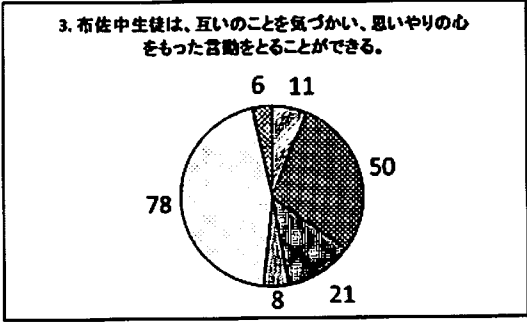
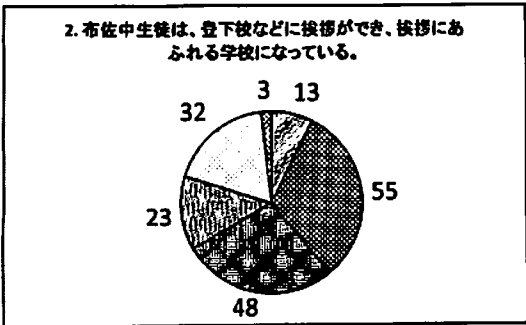
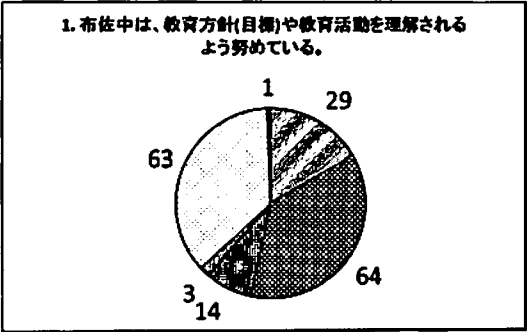




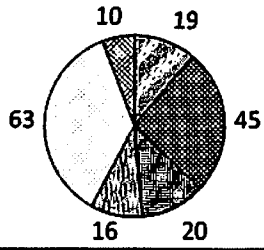


学校評価のための地域アンケート結果

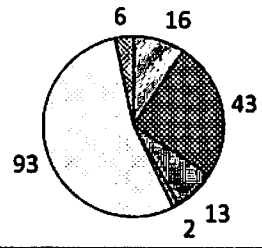
- そう思う
- 大体そう思う
- あまりそう思わない
- そう思わない
- わからない
- 無回答



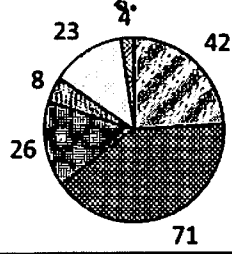
10. 布佐中は、避難訓練の実施などを通して、布佐の町に住む子どもたちに防災意識を育む教育をしている。



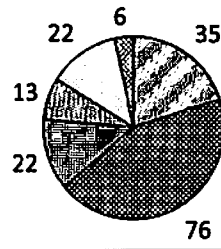
11. 布佐中は、特別に支援を要する生徒等、個々の生徒のニーズに応じた教育的支援を行っている。



12. あなたは、布佐中の教育方針(目標)や教育活動に関心があり、「学校だより」などにも目を通すようにしている。

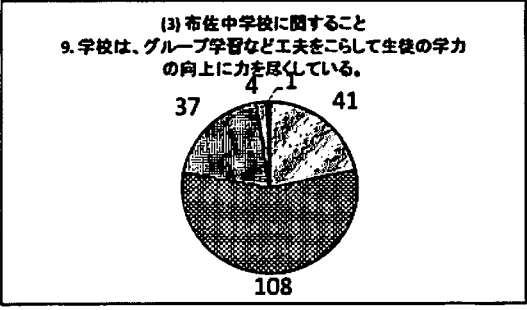
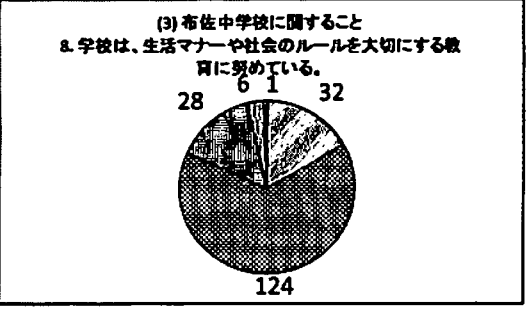
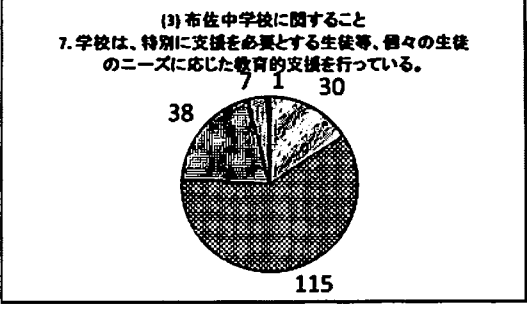
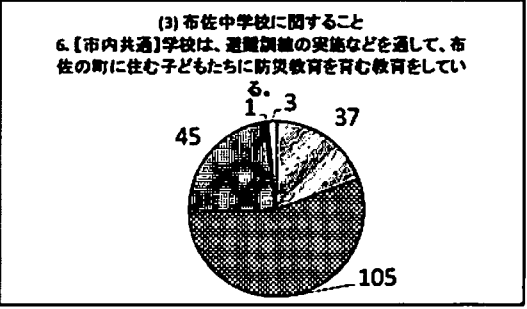
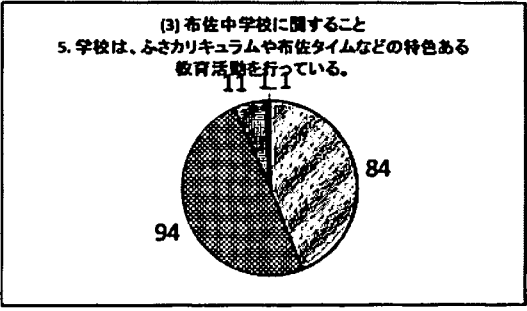
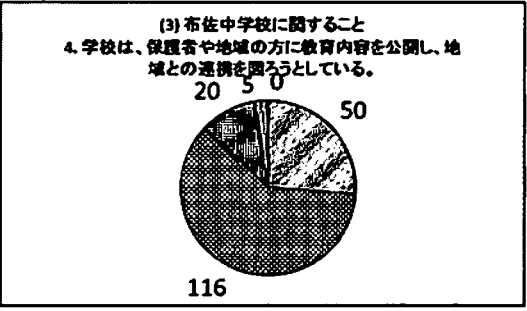
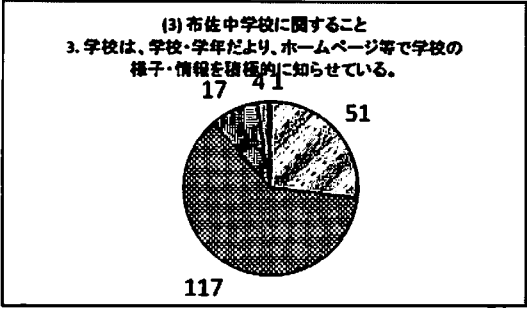
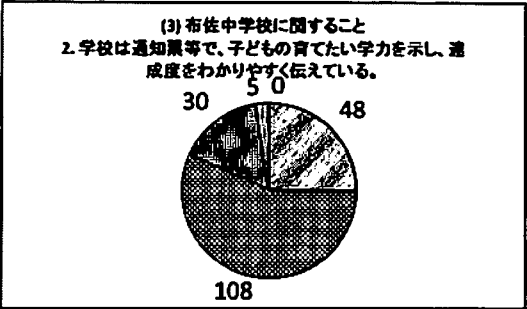
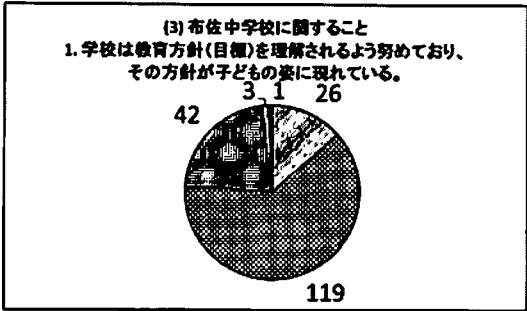


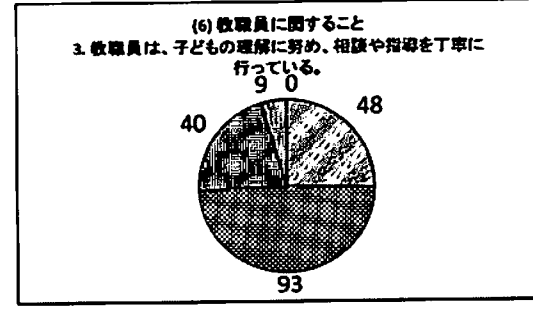
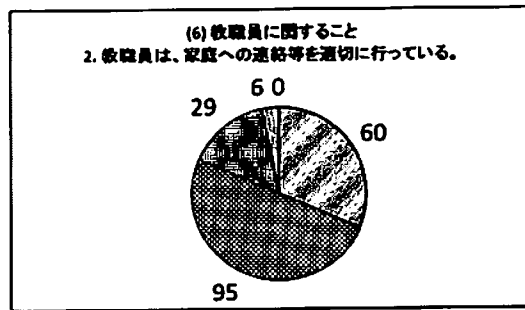
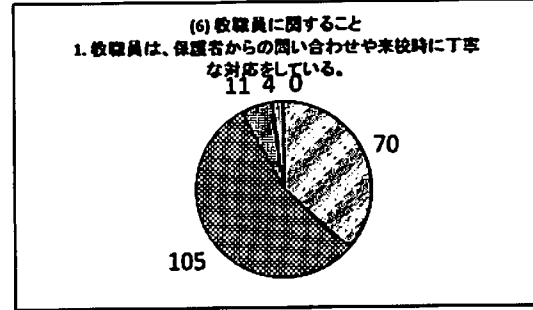
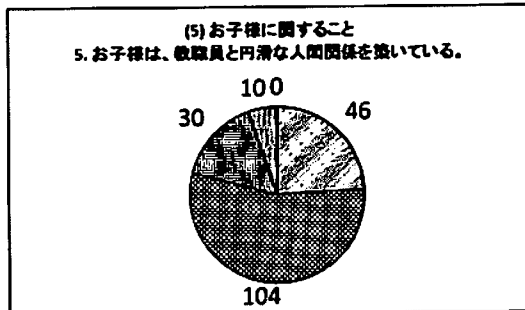
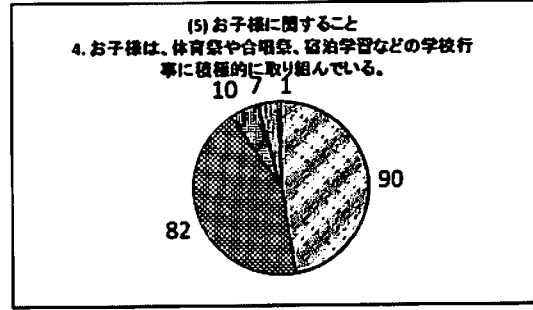
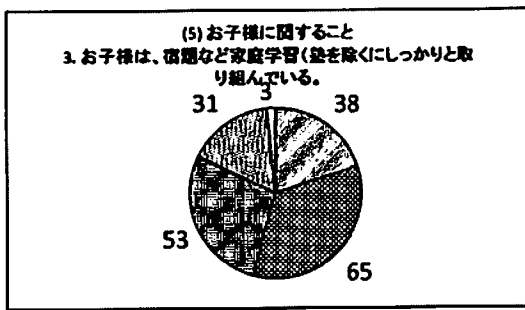
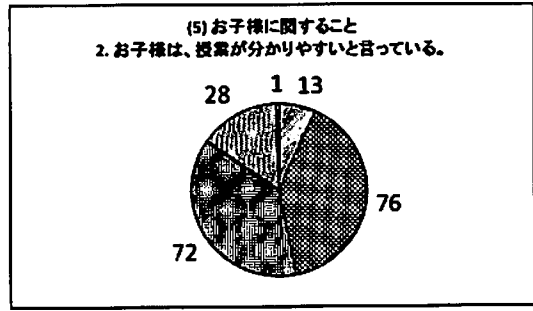
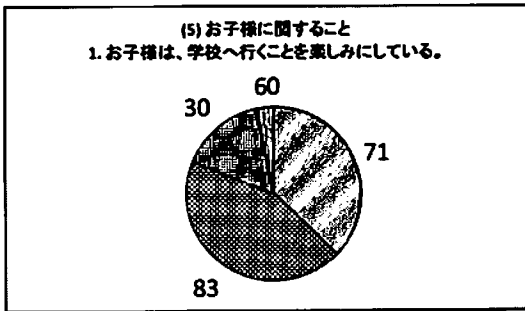
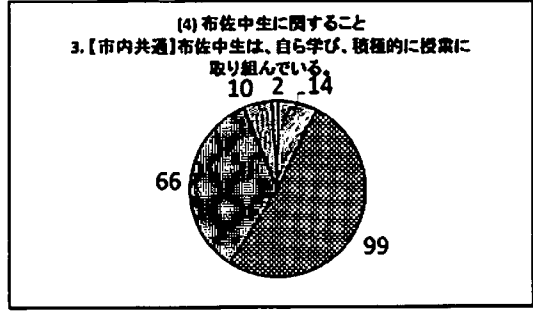
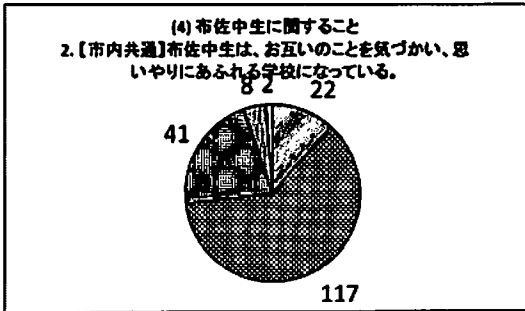
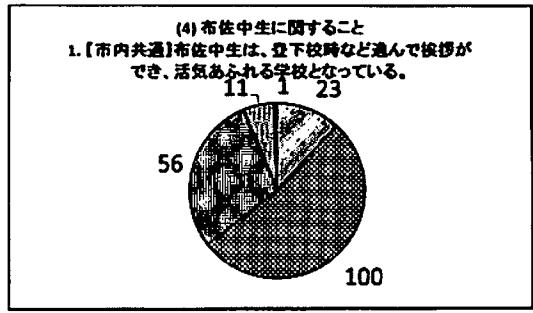
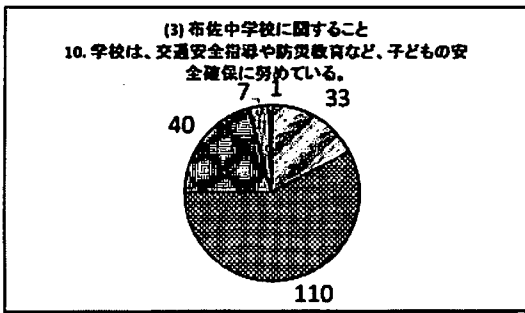
13. あなたや地域の方々は、登下校時などに子どもたちに声をかけたり、様子を気にかけて見守ってくれている。

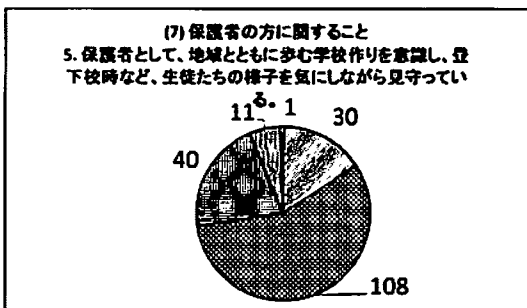
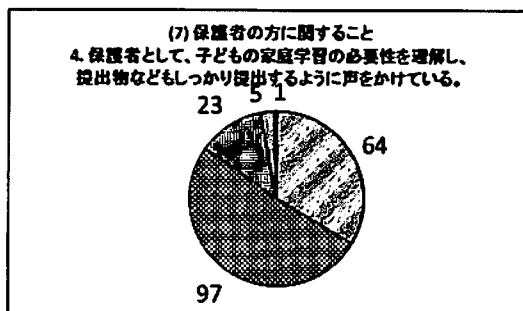
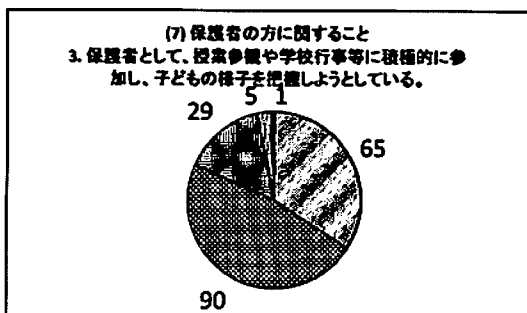
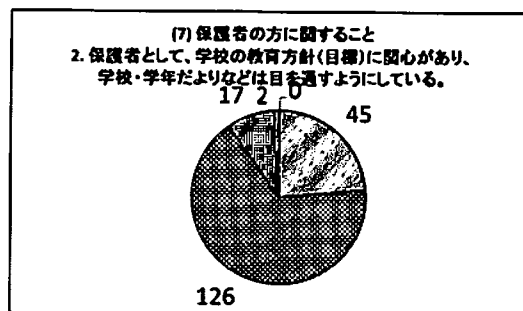
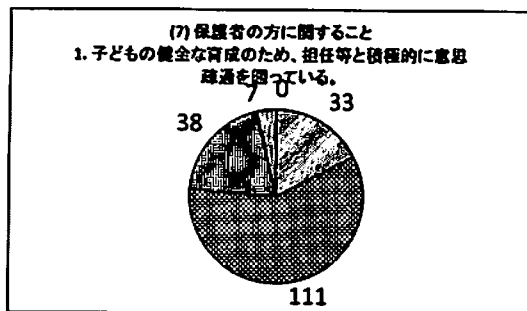


学校評価のための保護者アンケート結果

- そう思う
- 大体そう思う
- あまりそう思わない
- そう思わない
- 無回答







H29年度 学校評価のための自己評価集計から

1.共通項目の結果の比較から見えるもの・考察と具体的な手立て・・・

(1). 生徒・保護者・地域アンケートと教職員による自己評価集計数

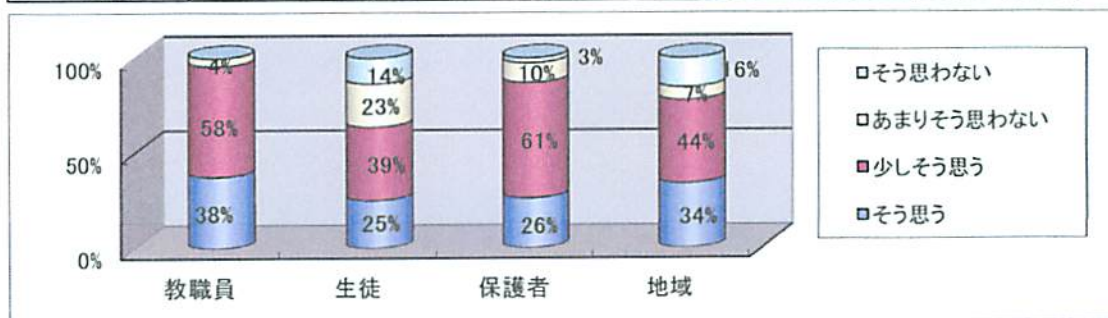
	在籍数	集計数	回収率
教師	23	23	100%
保護者	198	198	100%
生徒	253	234	92%
地域	518	176	34%
全体	992	631	64%

(2). 集計内容

※ 表内の数字は集計数を百分率(四捨五入)で表示しています。

① 布佐中は積極的に地域との連携を図っている。(生徒・地域の行事に積極的に参加している。)

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
教職員	38%	58%	4%	0%	100%
生徒	25%	39%	23%	14%	100%
保護者	26%	61%	10%	3%	100%
地域	34%	44%	7%	16%	100%

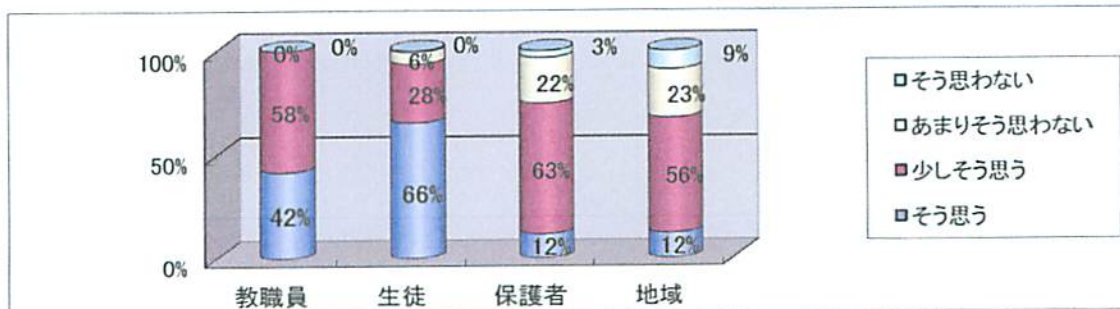


〈考 察〉

保護者や地域の方は学校が積極的に地域の行事に参加しようとしている認識がある。教職員も昨年度と比較して10ポイント増加していることから、地域と一体となって小中一貫教育を進めていくことについてかなり浸透していることがわかる。今後、生徒を地域に出していく方策を考えたい。

② 布佐中生は互いのことを気づかい思いやりの心にあふれている。
(いじめ根絶に向けて努力している。)

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
教職員	42%	58%	0%	0%	100%
生徒	66%	28%	6%	0%	100%
保護者	12%	63%	22%	3%	100%
地域	12%	56%	23%	9%	100%

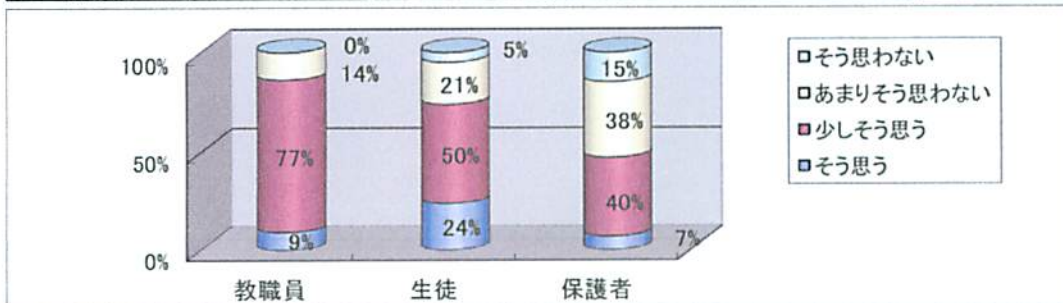


〈考 察〉

学校の生活を共にしている教師・生徒からの評価は昨年度と全く変わらず、いじめのない学校づくりに教職員、生徒は努力しているという意識があり、安心して通える学校という認識が高い。しかし保護者・地域からの評価は地域からの評価はそれほど高くないため、さらに豊かな心の育成に向けた取り組みが必要と感じている。

③ 授業の内容は分かりやすい。(グループを活用して「活動と協同」のある授業を行っている)

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
教職員	9%	77%	14%	0%	100%
生徒	24%	50%	21%	5%	100%
保護者	7%	40%	38%	15%	100%

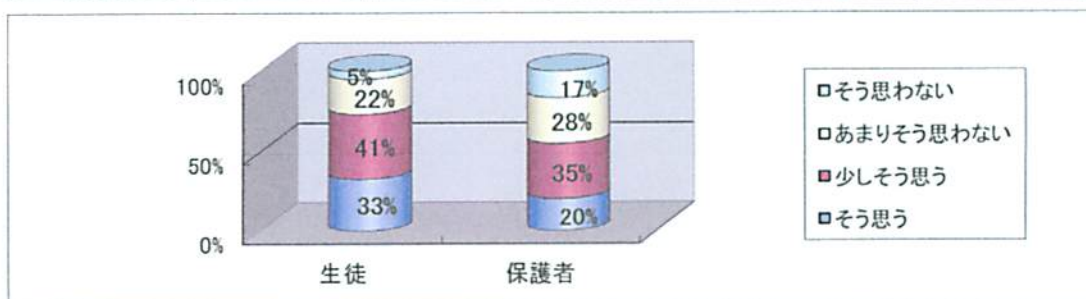


〈考察〉

全校体勢で「活動・協同的な学びのある授業」を推奨し、分かりやすい授業めざして教職員は授業方法の工夫や改善に向けて努力している。その結果、わかりやすいと回答した生徒は昨年度と同様に評価は高い。しかし保護者からの評価はそれほどでもなく、学力向上のために、更に生徒主体の授業を続けていく必要がある。

④ 予習や復習など、家庭学習に熱心に取り組んでいる。

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
生徒	33%	41%	22%	5%	100%
保護者	20%	35%	28%	17%	100%

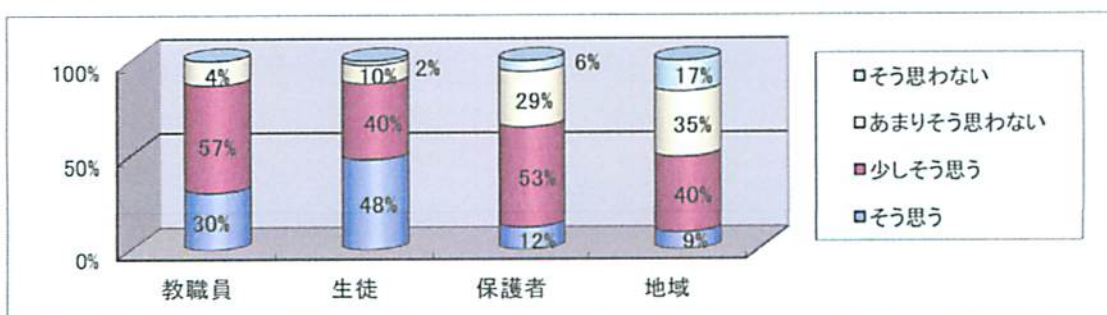


〈考察〉

肯定的な評価は、生徒は74ポイント、保護者は55ポイントで、保護者の約過半数は家庭学習の不足を感じているようである。また、全くそう思わないと答えた保護者が17ポイント存在することから、家庭学習の定着を課題として取り組む必要がある。

⑤ 布佐中生は登下校の時など挨拶ができ、挨拶にあふれる学校となっている。
(社会の一員としての意識を身につけた生徒を育成するための指導をしている)

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
教職員	30%	57%	13%	0%	100%
生徒	48%	40%	10%	2%	100%
保護者	12%	53%	29%	6%	100%
地域	9%	40%	35%	17%	100%

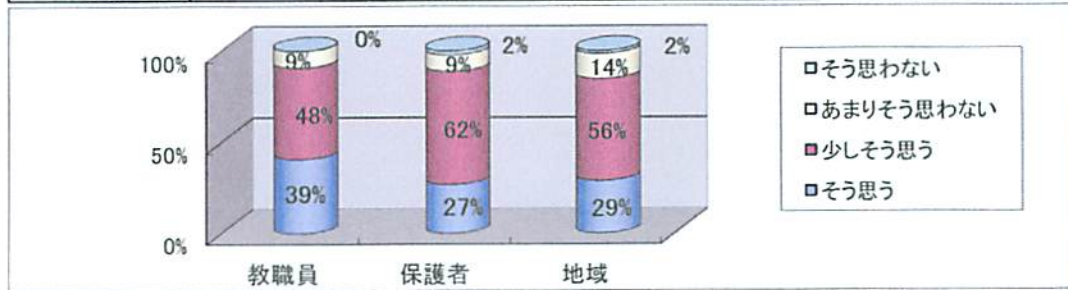


〈考察〉

登下校時の挨拶については、教職員・生徒ともに比較的十分にできている(指導している)と認識しており、地域からの評価も昨年度と比較して同様のポイントである。小中高と地域で連携して実施している「あいさつ運動」などを今後も継続していく必要がある。

⑥ 学校HPや学校・学年だより等で学校の様子や情報を積極的に知らせている。

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
教職員	39%	48%	9%	0%	96%
保護者	27%	62%	9%	2%	100%
地域	29%	56%	14%	2%	100%

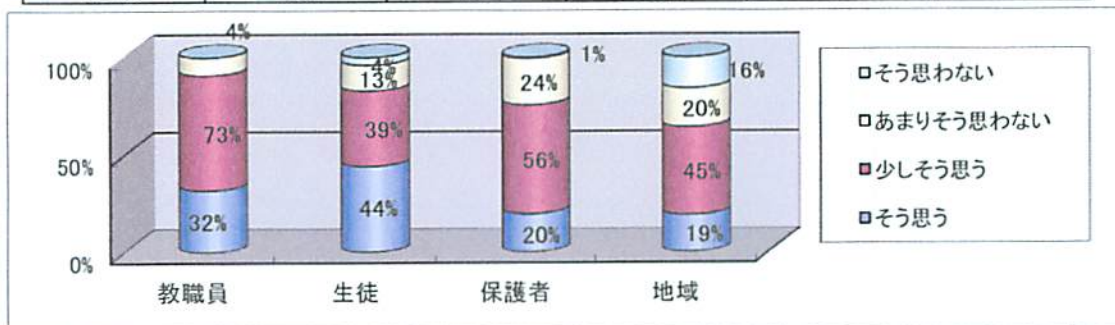


〈考察〉

昨年度と比較して、教職員や地域からの評価は変わらないが、保護者からの肯定的な評価は7ポイント上昇した。地域とともに歩む学校づくりをさらに推進するための手段として、HP・学校だよりの発行は大変有効である。今後も読みやすく、わかりやすい情報発信をしていくことが肝要である。

⑦ 布佐中生は避難訓練に参加して防災や安全に気をつけて生活している。
(危険予知能力育成、安全管理など適切に行っている。)

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
教職員	32%	59%	9%	0%	100%
生徒	44%	39%	13%	4%	100%
保護者	20%	56%	24%	1%	100%
地域	19%	45%	20%	16%	100%

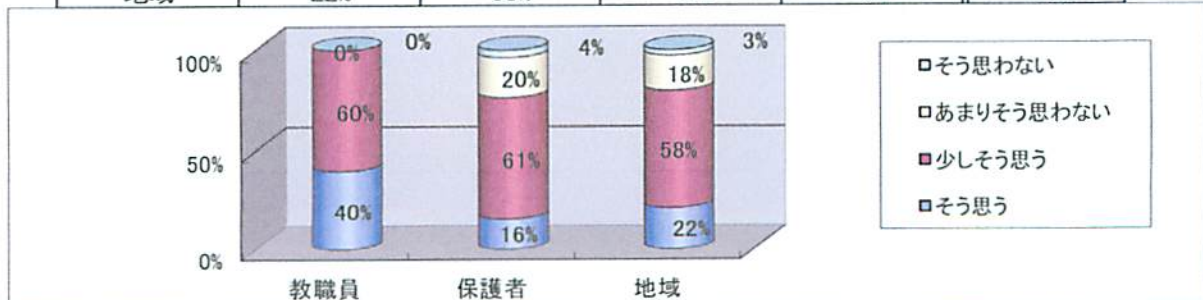


〈考察〉

地震と水害を想定した避難訓練を年間を通して3回行っている。また、本年度は全校集会の中で、地域の方を講師として東日本大震災発生時の様子について語ってもらう機会をつくった。昨年度と比較して保護者の肯定的な回答が14ポイント上昇した。被災地となった地域を学区に持つ学校として、今後も防災教育については力を入れて行くつもりである。

⑧ 学校は特別に支援を必要とする生徒に対して個々のニーズに応じた教育的支援を行っている。

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
教職員	40%	60%	0%	0%	100%
保護者	16%	61%	20%	4%	100%
地域	22%	58%	18%	3%	100%

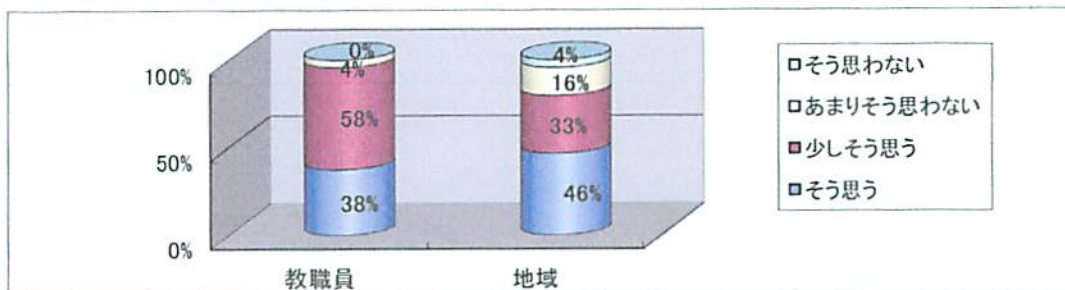


〈考察〉

地域の「そう思う」との回答が10ポイント増加した理由は、数学の授業においてのすべての授業でのTT指導や個別指導を実施していることや、個別指導教室を活用した個別指導を実施していることが浸透してきたためであると考えられている。しかし、その活動に見合った学力の向上が見えてこないため、保護者からの評価は昨年度とほぼ変わらず、教職員との認識の差が大きい。学校のための教育活動だけでなく、やはり家庭学習の定着が鍵である。

- ⑨ 布佐中は、家庭や地域と連携し、一体となって生徒を育てており、地域と共に小中一貫教育の推進を図っている。

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
教職員	38%	58%	4%	0%	100%
地域	46%	33%	16%	4%	100%

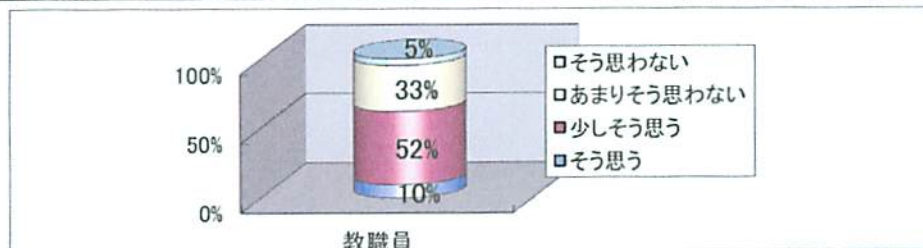


〈考察〉

地域ルームの有効活用や学校支援地域本部事業による学校花壇などの環境整備、数学・英語・家庭科・技術科を中心とした学習支援などが進められており、教職員の中にも学力向上のために必要であることが定着した。今後は、小中3校のコーディネーターが連携した小中一貫教育に向けての取組と小中一貫運営協議会を活用下「取り組みが必要である。

- ⑩ 読書・読書活動の充実のための取り組みをしている。

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
教職員	10%	52%	33%	5%	100%



〈考察〉

昨年度と同様、教職員による自己評価のなかで最も達成率の低いものは、読書・読書活動の充実のための取り組みの推進に関してである。来年度、学力向上のための図書室の活用について研究を行う予定であり、教科・領域での学校図書室の活用と読書活動、学校司書を活用した読書活動の活性化を行っていく。